# 令和６年度事業報告

少子高齢化の急速な進展に伴い社会福祉施策の見直しが進む中、公益社団法人稲城市シルバー人材センター（以下「センター」という。）は、高齢者の豊かな知識や経験・技能を生かした就業を通じ、「人生１００年時代」の中心的な役割を担い、地域社会からの期待に応えてまいりました。

企業において雇用期間の延長など高齢者の就業の分野における様々な競合が進む中、センターでは、令和３年度からスタートした中期基本計画の下、各種施策を積極的に展開し、会員数の拡大や更なる就業の確保、配分金単価の改正等に取り組みつつ、公共・企業・一般家庭各方面から仕事のご依頼をいただき、地域社会の福祉の向上と活性化に貢献してまいりました。

事業実績としては、技能系の職種において会員の高齢化などによる受注の制約の影響もあり、受託件数が目標数２，７００件に対し、２，２２７件となりました。契約金額は事業目標額３億６００万円に対し、指定管理者変更による契約終了もあり前年を下回る２億６，４００万円となりました。また、年間就業率は目標値を３．８ポイント下回る９２．２％となりました。派遣事業については契約件数が前年度同様の８件、年間実績額は指定管理者変更により終了した契約に対して類似した内容を受注し、前年度を１２２％上回る１千８１２万円となりました。

運営面においては、インボイス制度による新たな税負担も踏まえ、最少の経費で最大の効果を上げることを目指し、歳出では極力無駄を省いた真に必要となる支出を行いました。

また、歳入では一部事務費の見直しや公共からの補助金の確保に努めるとともに、確かで信頼される仕事やサービスの向上を目指し、受注の継続や新規受注の獲得を図りました。

会員の入会拡大に関しては、市広報紙への掲載や各公共施設へのチラシ・パンフレットの配架、市内５カ所の看板の設置等のほか、会員募集のパンフレットに年間の入会説明会の日程を折り込み、市内全戸への配布を継続しました。さらに、退会会員の抑制にも取り組みましたが、入会後すぐに就職先が決定された傾向も多くあり、年度末の会員数は前年度対比１０人、１．８％減の５６１人となり、プラスに転じることはできませんでした。

就業開拓に関しては、会員の就業意向状況の把握に努めるとともに、今後の就業開拓に向けた対策を実施しました。また、市からデジタルデバイド対策事業としてスマートフォン教室の事業を継続受託し、行政手続やサービスの向上に努めました。

具体的に就業に結びつく計画的な人材育成については、東京しごと財団等が主催する研修への参加や、仕事別グループによる自主研修の開催に積極的に取り組むとともに、事故防止に向けたフレイル予防や一人ＫＹの進め方に関する研修を行い、引き続き安全対策の周知・徹底を図りました。

以上のとおり、会員・役職員一人ひとりが「自主・自立、共働・共助」の理念の下、これまで以上に経営参画の意識を持って就業を通じた地域社会への貢献に尽力するとともに、関係機関や市民から信頼を得る方策を積極的に展開し、生涯現役・アクティブシニアの矜持をもって市民から愛される公益性のあるサービスを心掛けてまいりました。

１．基本方針の取組結果

（１）会員が働きやすい就業環境の整備に向けた就業体制の確立を目指しました。
（２）会員の安全就業の徹底と安全対策を推進しました。
（３）会員拡大及び会員の資質向上を目指しました。
（４）会員に適した就業機会の開拓並びに情報の収集及び提供を図るとともに、会員からの就業相談やセンター運営に関する意見聴取に努めました。
（５）市民から愛されるセンターをめざし、普及啓発及び社会奉仕等の活動を充実し、社会参加の推進に努めました。
（６）会員の就業機会を拡大するため、シルバー派遣事業を推進しました。
（７）センター事業の推進を図るため、会議・組織活動の活性化に努めました。
（８）センターの安定的運営を確実にし、更なる発展を目指すため、運営体制及び財政基盤の強化を図りました。

２．基本方針に基づき次の事業を実施しました。

（１）事業実績

| 項　　目 | ６年度目標 | ６年度実績 | ６年度目標比 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|
| 受託件数 | 2,700 件 | 2,227 件 | △473 件 | 63 件減 |
| 就業延日人員 | 60,000 日人 | 49,670 日人 | △10,330 日人 | 3,283 日人減 |
| 契約金額 | 306,000 千円 | 264,000 千円 | 13.7%減 | 5.7%減 |
| 年間就業率 | 96% | 92.2% | 3.8 ポイント減 | 4.6 ポイント減 |

（２）就業体制の充実

会員が働きやすい就業環境の整備を進め、就業体制の確立を目指しました。

①会員の経験・能力の発掘と調査・研究について、会員状況調査票を活用し実施しました。
②通常参加しているボランティア活動以外にも社会奉仕活動を実施しました。
③第一層生活支援・介護予防サービス協議体に参加し、介護事業等の情報交換を行いました。
④布ぞうり講習を継続実施し、事業の推進に努めました。
⑤稲城市デジタルデバイド対策事業である高齢者のデジタル活用支援のスマートフォン教室を継続して実施しました。

（３）就業環境の整備

会員の就業希望と就業の実態を把握しながら、適正な仕事別グループの在り方や新規事業の受け入れなど、環境整備に向けた就業体制の検討を行いました。

（４）就業の公平・平等化

就業に関する内容の検討と実態の把握に努め、公共施設の管理等を行う就業グループの就業年数との公平性と就業機会の均等を図るとともに、会報「シルバーいなぎ」及びホームページに掲載して公募による募集を継続しました。

３．安全対策の推進

会員の健康と安全就業をセンター事業の大きな柱とし、特に安全就業については、安全管理委員会、安全対策推進員、安全就業推進員等が中心となって、会員の安全就業の徹底と安全対策を推進しました。

①安全管理委員会を年７回開催し、積極的に事故防止対策に努めました。

②定時社員総会時に東京都シルバー人材センター連合に推薦した安全標語を掲示し、事故の未然防止のための啓発活動に努めました。

③安全対策ニュースを発行し、会員へ周知するとともに、事故が発生したグループでは再発防止会議を実施し、原因の分析や再発防止対策の検討等を行いました。

④安全対策推進員研修は、安全管理委員長の協力のもと、５月２０日、３０日に開催し、３８人が参加しました。

⑤安全視察として４月から３月にかけて計２４回、市内各就業場所について視察及び指導を行いました。

⑥会員の安全と健康を守るため、長期間就業しなかった会員に対して就業復帰に向けた聴き取りを実施し、就業環境の整備を図りました。

⑦転落事故防止策として、作業現場において危険箇所がある場合は、継続して調査し受注制限の対応をしました。

⑧車両事故が増加傾向にあることから、７５歳以上の就業時に運転する会員６名がマジオドライバーズスクール多摩校で実施した安全運転講習会に参加しました。

⑨事故の発生状況は、傷害事故７件、賠償事故０件、車両事故１件の計８件（シルバー保険適用外を含む。）となりました。

４．会員拡大と資質向上

（１）会員拡大・相談

センターの安定的発展のため、会員確保は不可欠であることから、一層の会員拡大に努めるとともに、各種相談を実施しました。

①ホームページに入会案内の記事を掲載しました。

②市広報紙を通じ、入会説明会の案内を行いました。

③会員募集のパンフレットを市内の公民館など公共施設に配置しました。

④市内５カ所に看板を設置し、広報活動・ＰＲを行いました。

⑤会員が自主的に知人や市民に呼びかけるなど、入会の促進を図りました。

⑥市内循環バス全車輌の車内にポスターを掲示し、入会促進を図りました。

⑦会員募集のチラシを全世帯に配布し、広く市民に入会等のＰＲを行いました。

⑧地域振興プラザに会員募集の懸垂幕を掲出し、広く市民に入会等のＰＲを行いました。

⑨センター車両に会員募集のマグネットシートを貼り付け、広く市民に入会等のＰＲを行いました。

⑩市民まつりや平尾まつりに参加し、入会へのＰＲ、手作り品の販売、スマートフォン無料相談会、障子・網戸の張替え実演等を行いました。

⑪東京しごと財団主催のこれからシルバー応援フェスタを稲城市のｉプラザにて開催し、地域社会に貢献し様々な分野で働くことのできる「シルバー人材センター」の魅力や、ライフスタイルに合わせた無理のない働き方が選択できるメリットを広く発信し、イメージアップと会員拡大を図ることを目的としたイベントの実施をしました。

⑫一般市民も参加できる事業として、シルバーハイキングを実施し、三沢川と窪全亮の歩んだ道をハイキング内容として、２７名の参加中１１名の市民の参加がありました。

（２）入会希望者の対応

| 区　分 | 内　容 | 回　数 | 参加人員 |
|---|---|---|---|
| 入会説明会 | 毎月２回、入会説明会を事前予約制にし、人数制限を設けて実施しました。<br>通常行っているセンター会場に加え、ｉプラザ・ふれんど平尾にも出張して実施しました。 | 説明会２７回<br><br>ｉプラザ１回<br>ふれんど平尾２回 | １９８人 |
| 面接・<br>新入会員研修 | 面接を実施し、入会を希望する市内の高年齢者にセンター事業概要と理念を説明して、入会促進を図りました。<br>就業に向けての状況聴き取りを職員が実施しました。 | 面接・研修<br>２５回 | １７７人 |

（３）技能及び教養研修

センター理念の浸透と就業拡大のため、会員に対する技能・知識の習得と向上を目的とした研修等を実施するとともに、各関係団体が実施する研修にも積極的に参加しました。

| 区　分 | 研修内容 | 実施日 | 参加人員 |
|---|---|---|---|
| 東京しごと財団 | ○新任理事研修（リモート研修） | 8/21 | ２人 |
| | ○経営管理研修 | 11/25 | ２人 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 独自の研修<br>（教養） | ○仕事別グループリーダー研修 | 11/8、11/13 | ４９人 |
| | ○在籍会員理念再研修（３年） | ※１ | ３７人 |
| | ○在籍会員理念再研修（６年） | ※２ | １１人 |
| | ○刈払機取扱い安全研修（大丸倉庫）<br>「植木グループ」 | 3/13 | １２人 |
| | ○救急救命研修（地域振興プラザ）<br>「植木グループ」 | 3/13 | １２人 |
| | ○植木剪定(民間家庭) | 9/19、9/20 | １１人 |
| | ○植木剪定(民間家庭) | 10/18 | １１人 |

※１　在籍会員理念再研修

入会満３年の会員を対象にセンターの運営形態及び理念の再研修を行い、浸透を図りました。

① 実施期間　１１月２０日、１２月２日
② 対　　象　入会満３年の会員　７０人
③ 受講者数　３７人
④ 実施内容　接遇に関するビデオを視聴し、基本事項を学びました。また安全管理委員会委員長からの安全・理念講座報告、グループディスカッションと発表を行い、信頼される就業向上を促しました。
また、新しい契約方法の見直しも踏まえて Smile to Smile の案内も行いました。

※２　在籍会員理念再研修（６年）

① 実施時期　２月１０日
② 対　　象　入会満６年の会員　３３人
③ 受 講 者　１１人
④実施内容　外部講師を招き、「人生１００年時代におけるフレイル予防」介護に頼らない高齢者になるための健康習慣の獲得の講演、自宅でもできる簡易的なトレーニング指導及び安全管理委員長による理念の再確認とフレイル予防・安全就業への心構えの研修を実施しました。

５．就業に関する情報収集と提供

（１）事業にかかわる仕事の開拓及び提供

会報「シルバーいなぎ」やホームページに募集中の就業情報を定期的に掲載し、会員への迅速な情報伝達を図りました。また、会員を対象とした就業に関する調査を実施し、会員への提供を行いました。

さらに、フリーランス法の施行に伴い、就業条件の明示を実施しました。

① 在籍会員状況調査　　実施期間　６月　対象者数　５６０人

②就業意向調査　実施期間　２月　対象者数　　９９人　回答３４人
回答率３４．３％

③新規就業開拓調査 実施期間　１０月　対象者数　６１５人　回答７５人
回答率１２．２％

（２）会員からの就業相談やセンター運営に関する意見聴取

代表理事等が毎週月曜日及び木曜日の午前中、センターにおいて、就業相談等を行いました。

実施日は毎週原則月・木　延べ９２日　　相談件数　７件

６．普及啓発、調査研究及び地域社会との連携

（１）普及啓発

会員及び市民に対してセンター事業の理解と浸透を図るため、積極的な普及活動を展開しました。

| 区分 | 実施内容 | 実施状況 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 会報の発行 | 会報「シルバーいなぎ」を発行し、全会員に配付し事業の情報提供等、会員相互の交流に役立てました。 | 年４回 | 毎回<br>７５０部 |
| 事業内容案内チラシの配架 | 公共施設利用の市民に広くＰＲするため、パンフレットラックを設置し、仕事内容を紹介するチラシを配架しました。 | 随時 | ６か所 |
| ホームページの更新 | 会員拡大や事業内容のＰＲをするためホームページを随時更新し、新しい情報を発信するよう努めました。 | 随時 | |
| 市広報紙等の活用 | 市の広報紙「いなぎ」にセンターの活動や会員募集記事を定期的に掲載し、市民に広く事業ＰＲを行いました。<br>また、社会福祉協議会発行の機関誌に広告を掲載し、センターのＰＲを行いました。 | 随時 | |
| 市内循環バス・時刻表の活用 | 市内循環バス（ｉバス）の運転席後方に車内広告ポスターを掲示して、センターをＰＲし、入会を促しました。 | 通年 | 市内循環バス８台 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 就業中のＰＲ | 屋外作業従事会員にセンターのネーム入りジャンパー及びベストを貸与し、センターの知名度の拡大に努めました。 | 随時 | |

（２）調査研究

発注者を対象とした事業推進に必要な調査を実施しました。

① 顧客満足度調査　　実施期間１０月　対象者数　６９人　回答２７人
回答率３９．１％

（３）地域社会との連携及び貢献

地域行事への参加やボランティア活動等により、地域社会との連携を深めるとともに活動を通じた地域貢献に努めました。

① 公共施設等へのボランティア参加

ア：４月７日（日）開催の多摩川清掃（北緑地公園、多摩川緑地）は、雨天により中止となりました。

イ：公共施設の植木剪定及び除草等の活動

・実施日　６月１１日地域振興プラザ廻り除草　　１５人参加
・実施日　９月３０日福祉センター廻り植木剪定　　１０人参加
・実施日１０月１５日地域振興プラザ廻り除草　　１８人参加

② 防犯活動

ア：市内一斉防犯パトロールへの参加（7/17・27 人、12/18・30 人）

イ：防犯パトロールカーで市内巡回を行う防犯活動を役員複数名により年６回実施しました。

ウ：就業時や経路途上において「地域見守り活動中」のワッペンを着用し、防犯に努めました。

７．シルバー派遣事業

高齢者の持つ知識・経験を活かした、より多様な就業が可能となるシルバー派遣事業を推進しました。

（１）派遣事業の啓発と受注の推進

適正就業のガイドラインに沿って契約を行い、事業への理解と周知に努めました。

派遣先　８件　派遣実人数３１人　　派遣金額１８，１２４，７０４円

８．会議・組織活動の活性化

センター事業の効果的推進を図るため諸会議を次の表のとおり開催し、組織活動の活性化を図りました。

（１）定時社員総会

| 会 議 名 | 開催日 | 内　　容 |
|---|---|---|
| 令和６年<br>定時社員総会<br>出　席　　８８人 | 令和６年<br>6 月 19 日 | 報告事項<br>〇令和５年度事業報告の件<br>〇令和６年度事業計画及び収支予算の件 |

| | | |
|---|---|---|
| 委任状　３７８人<br>議決権行使者１５人<br>合計　４８１人 | | 決議事項<br>〇令和５年度収支決算の承認の件<br>〇理事２名選任の件<br>〇監事１名選任の件 |

（２）理事会

| 会　議　名 | 開催日 | 内　　容 |
|---|---|---|
| 第１回理事会 | 令和６年<br>４月 22 日 | 〇事業報告<br>〇業務執行状況報告<br>〇部会報告<br>〇委員会報告<br>〇決議事項<br>・新入会員の承認の件<br>〇その他<br>・地域振興プラザ廻り除草ボランティアについて<br>・その他 |
| 第２回理事会 | 令和６年<br>５月 16 日 | 〇事業報告<br>〇部会報告<br>〇委員会報告<br>〇決議事項<br>・新入会員の承認の件<br>・理事・監事候補者の件<br>・令和６年定時社員総会の招集の決定の件<br>・令和５年度収支決算の承認の件<br>・令和６年定時社員総会提出議案及び報告等の件<br>・令和６年定時社員総会時における被表彰者の件<br>〇その他<br>・令和６年定時社員総会役割分担について<br>・定時社員総会被表彰者記念品について |

| | | |
|---|---|---|
| 第３回理事会 | 令和６年<br>６月 24 日 | ○事業報告<br>○部会報告<br>○委員会報告<br>○決議事項<br>・新入会員の承認の件<br>○その他<br>・定時社員総会の結果、反省等について<br>・専門部会・各委員会への委嘱及び地区担当理事等の選任について<br>・夏季一斉防犯パトロール役割分担について<br>・令和６年度上半期予定表について<br>・その他 |
| 第４回理事会 | 令和６年<br>７月 22 日 | ○事業報告<br>○部会報告<br>○決議事項<br>・新入会員の承認の件<br>○その他<br>・市民まつり及び平尾まつりへの参加について<br>・専門部会・各委員会への委嘱及び地区担当理事等の選任について<br>・夏季一斉防犯パトロールへの参加状況について<br>・「フリーランス新法」の施行に伴う Smile to Smile の活用に向けた取組について<br>・その他 |
| 第５回理事会 | 令和６年<br>８月 26 日 | ○事業報告<br>○業務務執行状況報告<br>○部会報告<br>○委員会報告<br>○決議事項<br>・新入会員の承認の件<br>・稲城市への要望書の件<br>○その他<br>・市民まつり・平尾まつり担当理事の割り振りについて<br>・地区会における質問・要望について<br>・令和６年度年間予定表（下半期）について<br>・その他 |
| 第６回理事会 | 令和６年<br>９月 26 日 | ○事業報告<br>○部会報告<br>○委員会報告 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ○決議事項<br>・新入会員の承認の件<br>・令和７年度配分金単価の件<br>○その他<br>・市長への要望書の提出について（報告）<br>・最低賃金改正による臨時職員賃金の改定について<br>・地域振興プラザ廻り除草清掃について |
| 第７回理事会 | 令和６年<br>10 月 28 日 | ○事業報告<br>○部会報告<br>○委員会報告<br>○決議事項<br>・新入会員の承認の件<br>・就業規約の一部改正の件<br>○その他<br>・Ｉのまち　いなぎ市民まつりの報告について<br>・これからシルバー応援フェスタについて |
| 第８回理事会 | 令和６年<br>11 月 21 日 | ○事業報告<br>○委員会報告<br>○決議事項<br>・新入会員の承認の件<br>・職員給与規程の一部改正の件<br>・職員の職務の級及び初任給に関する基準の一部改正の件<br>・職員の期末手当に関する基準の一部改正の件<br>・職員の勤勉手当に関する基準の一部改正の件<br>・準職員就業規則の一部改正の件<br>・シルバー総合保険の加入プランの件<br>○その他<br>・これからシルバー応援フェスタの報告について<br>・平尾まつりの報告について<br>・市内一斉防犯パトロールの参加について<br>・年末・年始の予定について |
| 第９回理事会 | 令和６年<br>12 月 23 日 | ○事業報告<br>○部会報告<br>○委員会報告<br>○決議事項<br>・新入会員の承認の件<br>・役員賠償責任保険加入の件<br>○その他 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ・１月から３月までの入会申込者の取扱いについて<br>・市内一斉防犯パトロールへの参加状況の報告について |
| 第１０回理事会 | 令和７年<br>1 月 27 日 | ○事業報告<br>○部会報告<br>○委員会報告<br>○決議事項<br>・新入会員の承認の件<br>・令和７年度稲城市シルバー人材センター予算編成方針の件<br>○その他<br>・部会・委員会組織の見直しについて<br>・その他 |
| 第１１回理事会 | 令和７年<br>2 月 27 日 | ○事業報告<br>○部会報告<br>○委員会報告<br>○その他<br>・令和７年度上半期予定表について<br>・部会・委員会組織の見直しについて |
| 第１２回理事会 | 令和７年<br>3 月 27 日 | ○事業報告<br>○業務執行状況報告<br>○委員会報告<br>○決議事項<br>・代表理事の就業の件<br>・理事の就業の件<br>・理事の就業の件<br>・理事の就業の件<br>・理事の就業の件<br>・令和７年度事業計画の件<br>・令和７年度収支予算の件<br>・令和７年度資金調達及び設備投資の見込みの件<br>・専門部会設置規程の廃止の件<br>・基本計画実施部会設置規程の廃止の件<br>・広報委員会規則の廃止の件<br>・安全管理委員会規則の廃止の件<br>・就業推進委員会規則の廃止の件<br>・理事・監事選考特別委員会規則の廃止の件<br>・総務委員会設置規程の制定の件<br>・事業委員会設置規程の制定の件 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ・広報委員会設置規程の制定の件<br>・安全管理委員会設置規程の制定の件<br>・基本計画策定委員会運営規則の制定の件<br>・基本計画実施推進本部設置規程の一部改正の件<br>・育児・介護休業等に関する規程の一部改正の件<br>・職員給与規程の一部改正の件<br>・職員就業規則の一部改正の件<br>・準職員就業規則の一部改正の件<br>・理事・監事選考基準の制定の件<br>・特定費用準備資金（インボイス負担金のための特定費用準備資金）の保有の件<br>・重要な使用人の解任及び選任の件<br>〇その他<br>・上半期予定表について<br>・会員募集チラシについて<br>・多摩川清掃について<br>・その他 |

（３）専門部会

①総務部会　　６回

②事業部会　　７回

（４）基本計画実施部会　６回

（５）地区長会議　　３回

（６）地区会・地区班長会

地区会　　４４回　参加人員延べ６５４人

地区班長会　　４０回　参加人員延べ１９７人

（７）広報委員会　　１６回

（８）安全管理委員会　　６回

（９）就業推進委員会　　６回

(10) 就業適正化特別委員会　　開催なし

(11) 入札・配分金特別委員会　２回

(12) 理事監事選考特別委員会　１回

(13) 仕事別グループ会議　　随時

９.センターの運営体制の充実及び財政基盤の強化

①会員及び役員主導による運営体制の強化と充実

センター運営に関わる会議や就業開拓等について、会員・役員が中心的な役割を担い、センターを自らの組織として認識し運営に関わっていくことを推進しました。

②財政基盤の強化

より一層の経費の費用削減と事務費率の一部増額を行い、センター財政の健全化を図りました。

③車両の効率的な運用

事務局内の安全運転管理者の講習を継続し、車両管理に努めました。

現場作業に必要な車両について、使用状況もみながら複数の職種グループ間で共用し、効率的な運用をいたしました。また、安全運転装置も順次対応し、事故防止に努めました。

④事務の改善と効率化

職員の事務担当の複数化を適宜実施し、効果的に処理ができるよう改善をしました。さらに、ＯＡの活用により就業に対する事業処理や情報伝達を幅広く実施いたしました。